

H27 講座実施状況及び受講者からの主な感想

H27.7.2現在

区分	月 日	内 容	講 師	実施内容	出席人数	受講者からの主な感想
1	5/10 (日)	開講式 ①在留外国人の状況、バイリンガル指導者の役割と社会的意義	石井恵理子氏 (東京女子大学現代教養学部教授)	外国人をとりまく社会的背景と課題、自立のための日本語習得の必要性について。多文化共生社会のためにバイリンガル指導者が果たする役割を具体的に考える。	16	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生及び外国人が日本社会に存在する必要性を改めて認識することができた。 ・色々考える機会となりました。・社会と言葉の関係に対する理解が深まりました。 ・自分も成長しながら、色々なことを知りたいです。・毎日の生活に使うことを覚えたいです。 ・生活に役立ち、新しい友達ができる。・先生が素晴らしいです。 ・自分の経験、皆さんの経験を交換できて良かったです。知ること、たくさん勉強になりました。
2		②異文化理解と適応過程		文化の違いから起こる誤解や対立、心理的葛藤等の現象について。自らの経験を基に、日本社会に適応する際に必要なこと。		
3	5/24 (日)	③価値観の多様性とコミュニケーション	徳井厚子氏 (信州大学教育学部教授)	挨拶、お礼、お詫び等のコミュニケーション、習慣やマナーなど、人間関係に関わる言語行動や規範意識等の文化差を知り、相互に調整する方法を考える。(行動に現れる価値観。文化的背景) 価値観の異なる人同士でのコミュニケーション・ギャップをどう解決するか。	23	<ul style="list-style-type: none"> ・価値観の違う人とのコミュニケーションが重要だとわかった。 ・習慣、価値観について考えることができました。・気楽な雰囲気、先生の分かりやすさがよい。 ・価値観についてディスカッションができて、面白い。 ・時間がちょっと短すぎると感じています。 ・色々な方の価値観がだんだん見えてきました。色々な意見があって感心しました。
4		④コミュニティのニーズ分析(ワークショップ)	堀 永乃氏 (一社)グローバル人財サポート浜松代表	外国籍住民に関する長野県の人口状況(資料参照)、そして外国人が抱える課題 外国籍バイリンガルが教える日本語教室の意義(自分たちだから、できること) 目標の設置(グループワーク) 小グループにて意見交換。日本語教室で教えてみたいことを提案。		
5	6/14 (日)	⑤日本語の整理とブラッシュアップ1	佐藤佳子氏 (松本市地域日本語教育システムコーディネーター)	類似表現の使い分け(「もつと」と「ずっと」、「～にくい」と「～づらい」、「～したところ」「～したばかり」等。また「～られる」における可能・受身・尊敬)など。	19	<ul style="list-style-type: none"> ・普段使っていることばで自分が分からないところを分かりやすく説明してくださってよかった。 ・具体的で分かりやすかったです。・新しい、正確な日本語を覚えました。 ・こういう知識こそ私にはなかったものです。 ・標準の日本語を勉強できました。皆それぞれ考えながら先生の話の聞いたのでよかったとおもいます。
6		⑥日本語の整理とブラッシュアップ2		日本語学習者の間違えやすいポイントについて。学習者として、また指導者としての視点から、その理由について考える。		
7	6/21 (日)	⑦年少者の日本語学習	石井恵理子氏	子どものことばを育てるために必要な視点 ・言語および認知力など諸側面での発達段階 ・子どもの背景にある各言語の習得状況、バランス ・家庭・学校(保育所)・地域の言語環境、言語使用の質と量 ことばの力 基礎的対人コミュニケーション力、認知学習言語能力、弁別的言語技能の3つの異なる言語能力について。二言語環境の子どもにとっての第一言語と第二言語の発達の関係(二言語共有仮説)について。	18	<ul style="list-style-type: none"> ・今自分の活動の形が良いかの確認ができた。・勉強になる。先生が上手いから楽しい。 ・これからバイリンガル支援員として行事に生かせると思う。・学校について日本の習慣・制度が勉強になった。 ・子どものことばを正しく育てる方法を学習した。・専門的な知識を勉強することができた。 ・バイリンガル家庭で、子どもの母語の言語能力を保持するためにどうすればいいかを習った。 ・教えてくれたことは理解できましたが、参加できる質問がなかった。 ・「子どもを育てる、学校を学び、おもしろくなる」聞くとよいです。
8		⑧日本の教育制度、学校の仕組み	大橋春美氏 (飯田市立山本小学校 英語教諭)	日本の外国人登録者数の国別割合 日本の教育制度や進路選択の実際、学校の決まりや行事など日本の学校文化について。 自分の出身国との違いを確認、保護者に期待されることを知り、十分な対応が困難な保護者の支援について考える。		
9	7/5 (日)	⑨教育現場での支援・子どもや親にどう寄り添うか～バイリンガル日本語指導者としてできること、伝えられること～	栗林恭子氏 (松本市子ども日本語支援センターコーディネーター)	学校からの通知の読み方、担任とのやり取りで使用する日本語表現や、背景知識について。		
10		⑩公的サービスの仕組み、手続きに必要な日本語表現	佐藤佳子氏	医療、保険の仕組み、必要な手続きや行政文書で 사용되는基本的日本語表現について。		
11	7/12 (日)	⑪日本語コミュニケーション活動の設計(ワークショップ)	堀 永乃氏	各コミュニティで周囲の人々と関わりながら日本語力を高めていくことを目指し、活動を考える。経験・知識、日本語力など多様な人々が一緒にできる内容、理解のための手立て、ことばの整理などを具体的に検討する。		
12		⑫日本語コミュニケーション活動の設計(教室活動)(ワークショップ)		具体的な授業案を組み立てる。		
13	8/2 (日)	⑬模擬演習	佐藤佳子氏	参加者同士で活動案を実践してみる。		
14		⑭活動方針発表、講評修了式				